

江源氏鑑

十四



210  
72  
Vol 15



地下  
部  
寄  
年  
月  
日

寄

寄  
贈  
明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名  
大正七年六月八日

江源武鑑卷第十四

永祿十二年

正月大

朔日卯剋ヨリ午剋ニ至テ大雪下ル  
 觀音城出仕御一門へ屋形御對面旗頭等御札ヲ請  
 玉フ事如例年

二日天氣快晴觀音城出仕如例年

三日屋形觀音堂ニ參リ玉フ毎年十八日ニ

彼堂へ參リ玉フ當年何ノ義ニ依テカ如此

江源武鑑  
卷第十四  
永祿十二年



四日京都ヨリ使節アリ江洲ヨリ相國寺ニ  
ツケヲカル旗頭ヨリ言上ス其品ハ一書ニ  
テ注進ス其詞ニ曰

一 將軍家上野細川ニ命シテ相國寺御安座  
義皇家上ニ居シ玉フ事不可然トテ舊

冬ヲレツメ十二月廿七日俄ニ本國寺へ  
御座ヲウツサレテ候也

一 三日午刻ニ河内國三好左京大夫義次カ  
館ヨリ早馬ヲ以テ將軍家へ言上仕ルノ

品々ハ今月朔日ニ四國ヨリ三好山城入  
道笑岩泉州堀ノ津ニ著陣シテ其勢三千  
騎ナリ二日三好日向守同下野守岩成主  
税松永彈正少彌父子松山新入松謙ヲサ  
カイノ津ニ招キヨセ笑岩カ曰各降參ス  
ト云共一旦ノ事ニコソアラン前將軍義輝  
公ヲ正ク殺シ奉ル此一家ナリ急キ人數  
ヲ集メ勢ヲ汰ヘントテ畿内ノ諸率人ヲ  
招キ集ル中ニ前美濃國ノ守護齊藤右兵



衛大夫龍興同叔父長井隼人佐其外率人  
ヲ集メテ其勢五千騎ニテ六條本國寺ハ  
押寄當將軍ヲ討奉ラントテ今日泉州ヲ  
立テ三好カ一家上洛仕ノヨシニテ候事  
一 今月朔日泉州家原城ヲハ早速勢少シキ  
ニ依テ三好攻落テ候ト申候家原ノ城主  
寺町左近將監崔部次兵衛尉澤田備後守  
ナト討死致スノヨシナリ依之三好大キ  
ニ利ヲエテ泉州所々ノ取出共十八所ニテ

攻落スノヨシナリ同日ニハ河内國ニ乱  
入義次カ旗頭ノ城共テ攻候トナリ義次  
防戰アルノヨシナリ右ノ條々ハ義次ヨ  
リ將軍家へ注進ノ通ニテ候事  
一 本國寺ニテモ三好カ勢向フヨシヲ方々  
ヨリ注進ニ依テ想門西門ヲ防クヘキノ  
由ニテ軍伍ヲ定メラレテ候事  
一 屋形上洛ノ御事ハ明後五日ニ可然候子  
細ハ屋形急キ上洛ト三好知テ候ナラハ



本國寺へハ寄候ニシタフくと伏見竹田  
 ノ邊ニテモ三好カ勢ヲ引ヨセテ合戦ア  
 ラハ一定味方ニ利アルヘキニテ候タトハ  
 三好カ勢本國寺へ直ニカ、ツテ候トモ  
 二日三日ノ合戦ニテ味方利ヲ失フ程ノ  
 事ハ御座有間敷候也三好カ勢洛中ニテ  
 モ打入タルヲ御ラニ有テ屋形上洛アラ  
 ハ大キニ利有ヘキト各存事也此旨急キ  
 注進アルヘキ也

永禄十二年正月三日酉刻

蒲生右兵衛大夫  
 朽木宮内大夫

山崎源太左衛門

青地駿河守

野村越中守

澤田武藏守

山岡美作守

進藤山城守殿

後藤喜三郎殿

浅井備前守殿



右ノ狀今四日卯刻ニ觀音城ニツク刻付事  
ノ外ヲソキヨシヲ糺シ玉フニ使節大津茨  
川ヨリ船ニノルニ風俄ニ吹ヒテ出テ勢多  
ヘ流サレテトカクタ、ヨフテ如此ト云  
四日屋形辰下刻ニ國中ヘフレ渡サレ上洛  
可有トテ江東ノ旗頭中其外觀音城出仕ノ  
面々計ヲ召ツレラレ今日巳刻ニ觀音城ヲ立  
玉フ濃州岐阜ヘハ澤田左兵衛尉ヲツカハ  
サル織田家モ早々上洛有ヘキトノ御使節

ナリ同日午刻ニ大津ニツキ玉フニ江西江  
北江南ノ旗頭等回文ヲ見ルヨリ其儘城々  
ヲ打立テ大津ニテ屋形ノ御旗本ト一成テ  
上洛ス酉刻ニ屋形山科ニ陣ヲスヘラレ京  
都ノ注進ヲ待玉フ  
五日三好カ勢ニ手ニ成テ本國寺ヘラレヨス  
三好笑岩入道ハ松永父子ヲ先陣トシテ南  
大門ヨリ攻カハル同日向守同下野守ヲ大  
將トシテ二千五百騎ニテ大宮ヲノホリニ



カケ通テ北ヨリ攻寄ス是ハ洛中ニ本國寺  
助勢ノ者アラハ防カントノ笑岩カ計トナリ  
スヘテ三好一家ノ勢ハ五千二百キナリ辰  
ノ下剋ニ矢合有テ戰フ江陽ノ屋形粟田口  
ニテ勢ヲクリ出シ旗等ヲ卷テワサト伏見  
通ヘ勢ヲマワシ本陣ヲ四條川原ニ立ラル  
同日午剋ニ本國寺在番ノ面々アイツノ旗  
ヲ上ルニ屋形サイハイヲ取テ諸勢ヲ進メ  
竹田口四條東真如堂口三方ヨリ攻カ、ラル

本國寺ノ勢江陽ノ旗三方ヨリ上ケ來ル  
ヲ見テ南大門北口ニ方ノ門ヲ開キ打テ出  
ルニ三好カ勢中ニトリコスラレテウタル、  
者千八百キニ及ナ然ルニ三好左京人夫義  
次ハ三日若江ノ城ヲ立テ三千騎ニテ上洛  
スルニ四月八幡ニツロテ江州ノ勢ト一ツニ  
成テ本國寺後誥セントテ使節ヲ以テ屋形  
ヘテツシ合スニ一手ニ成ル事不可然トノ事  
ニテ義次ハ向日明神ニ三千騎ヲニ手ニ備ヘ



江州ノ勢ノ働ヲ待處ニ本國寺ヘカ、ル三好  
カ勢今辰剋ヨリ午剋ノ終ニテ戰フテ大半  
討レ叶ハシト三軍一備ニ成テ東寺ヲクタリ  
ニ山崎ヘ引クニ向日明神ニヒカヘタル義次三  
千ヲニ手ニ備ヘテカ、リ向フニ笑岩カ勢  
一途ニ戰フニ依テ義次カ勢カケ立ラシ嵯  
峨ヲサシ引退ク江州ノ勢本國寺ノ勢ト一  
ニ成テ笑岩カ勢ヲ追行ク屋形ハ本國寺ヘ  
入玉フ今日ノ合戰味方大利アリ雖然向日

明神ニ陣取タル義次カ勢敗北シタレハ對々  
ノ合戰也ト云戊剋ニ至テ笑岩カ勢ハ屋カ  
崎ヘ引退ク味方ツ、ヒテ不戰今日四度ノ合  
戰ニ味方ヘ討取ル首二千三百七十五ナリ  
六日卯剋ニ三好笑岩退散シタル勢ヲ集メ  
其勢二千騎ニテ旗ヲモサ、セスカサシルニ  
ヲモ付ス不意ニ東寺ヨリ打入テ町屋ニ火  
ヲカケトキノコヘヲモ不立攻ルニ江州ノ勢  
共七十五騎ニテ討死ス宸圖ニアタツタル



合戦ナリ辰刻七手組鑓ヲ一面ニナラハ小路  
ヲ防キ戦フニ屋形自ラ鑓ヲ取テ何ノ不意  
ニ笑岩カ寄タリトテ何ホトノ事カアラン  
中ニ取コメ討ヤトテ東寺口へ一文字ニカ  
カラルニ諸將此言葉ニハチテヤケ立ツ町  
屋ヲノリユヘク打立カ、ルニ笑岩カ勢七百  
五十騎討死ス軍大將薬師寺九郎左衛門貞  
春松山新入松謙三好新左衛門同備中守ヲ  
打取レハ笑岩八百騎ヲ跡ニタカハセ唯共

五騎ニテ四國ヘヲチ行クト也此事味方ニハ  
不知笑岩其外三好一家ノ大將ハ皆此八百  
騎ノ内ニ有リト思フテ馬物具ノヨキヲハ  
其ヨト目ヲカケカケ寄ノ八百騎ヲ一騎モ  
不殘討取ル午刻ニ東寺ノ軍終テ首共ヲア  
ラタメケルニ笑岩下野守カ首ハナレ今度ノ  
合戦ハ笑岩一定利アル事カタモト見テ十  
死一生ノ合戦ヲナシケルカ其身クハ落去  
リ討死ヲセス良將ノ計ヲレリタル者也ト云



七日兩日ノ合戰ニ打取首共ヲ四條五條ノ  
川原ニカケサラス大將分ノ首ヲハクキヤウ  
ニスヘテサラス是良將ノ礼ナリト云  
八日午剋ニ美濃國ヨリ織田家其勢ワツカニ  
八千ニテ上洛ス尾州三州ノ勢ハ追々ニ上  
洛スルノ由ナリ信長何ニ依テカク上洛ヲ  
ソキト云ニ日野ノカイカキニ窄人ニテ有  
リケル屋形族兼禎父子去年ヨリ三好笑岩  
ト一致シテ六條本國寺ヲ攻ン時一定義秀

信長上洛アルヘキ然ハ義秀ヲハ上洛サセヨ  
京都ニテ一戰シテ勝負ヲ決セニ信長上洛  
スルナラハ兼禎父子道ヲサヘキリ玉ヘ然ハ  
江州ノ家人等多ハウラカヘリ兼禎ノ手ニ  
付クヘシ勢州ノ國司モ信長跡ヲサヘキリ  
玉フヘキトナリト云合セケルニ依テ信長五  
日ニ岐阜ヲ立上洛シ玉ヘ共兼禎父子栢原  
ニ出張シテ勢州ヨリノ加勢サヘ加ツテ其勢  
四千ニテタカヘハ信長是ニテヲサヘラル



兩日合戦ニ兼頼父子ニ打勝テ今日ニ至テ  
上洛スルノヨニナリト云  
九日今度合戦ニ其功ヲアラハシタル面々ニ  
今日其沙汰アツテ各賞地ヲ至ル中ニ毛江  
陽ノ旗頭野村越中守高勝ニ將軍自筆ノ感  
狀ヲ賜ル  
十五日將軍家參内アリ義秀信長兩將將軍  
ノ左右ニ供奉ス  
十六日卯刻ヨリ未刻ニ至テ大雨下ル酉刻

二地震

十九日義秀信長兩將京ヲ退キ國ニカヘラル  
北日關東へ回シ山伏今日江陽ニカヘツテ  
屋敷ニ言上ス意旨ハ今月上旬伊豆ノ北條  
氏康父子四万五千ニテ駿河へ進發是ハ彼  
國ノ守護今川氏實舊冬武田大膳大夫入道  
信玄カ爲ニ國ヲ退キ遠州へ退キニ氏實  
ハ氏康ノ聲ナレハ押領使ノ信玄ヲ討ント  
テノ進發ナリト云



同上旬今川氏實八千ノ人數ニテ駿州へカ  
へリ來テ薩埴山ニテ甲州ノ武田信玄ト對  
陣ス武田ハ真津川原ニ陣取ル此合戰武田  
ニ利アリトナリ比條父子自ラ手ヲサケテ  
戰フテ武田力勢三百騎ウタルトナリ  
廿五日ノ夜戌剋ヨリ東ノ方ニ大星出テ西  
ノ方へケフリノ如ク三筋十四五間ホ十二  
自氣立  
廿八日湏田越後入道忠全卒行年七十三御

伽ノ衆ニテ將軍家幼童ノ時ヨリ御學文ノ  
師ナリ仍テ將軍家甚哀傷シテ江州湏田ノ  
濱ニ一字ヲ建立シテ松隨寺ト号シ玉フ

二月大

九日義秀信長兩將上洛  
十五日兩將評義有テ二條元ノ御所ヲ方一  
町四方ヒ口ケサレワタレ四十五間ニ堀ヲ  
ホリ石垣等其々ニ請取アツテ今日御所造  
營ノ事始メアリ五畿内ニ近江美濃尾張等



ノ人夫ヲ集メ夜ヲ日ニツキ御普請ヲ急キ  
玉フ村井長門守野村越中守織田大隅守三  
人上奉行ナリ下奉行十二人御所作事ノ次  
第多ニ依テ不記  
廿二日江陽ノ屋形尾洲ノ織田家京ヲ出領  
國ヘカヘラル信長觀音城ニ四日滯留有テ  
廿五日ニ濃州岐阜ヘカヘラル

三月大

三日佐々木ノ御祭礼アリ近年所々ノ合戦

ニツキテ江州ノ旗頭等各立願ノ事多シテ  
祭礼ノ渡リ物善ツクニ美ヲツクス近年ニ  
不覺ケツカウナリ  
四日午刻ニ雹下ル目ニカケテ三四文目アリ  
山野ノ鳥畜共多ウタレ死ス  
十日屋形京極淺井進藤二命レテ日野カイ  
カケニ居城アル兼禎父子ヲ攻討ヘキノ評  
定アリ  
十一日兼禎父子ヒソカニ三百計ニテ勢州



ノ國司ヲ頼三彼國へ退キ至フソヨシ蒲生  
右兵衛大夫カ方ヨリ早馬ヲ以テ觀音城へ  
注進ス屋敷時剋ヲウツスユヘニトテ後悔  
スト云云勢州ノ國司ハ兼禎ノ掣ナレハ一味ストナリ  
十五日尾陽ヨリ不破河内守江陽ニ來ル織  
田家ヨリノ狀アリ是ハ勢州ノ國司ヲ兩旗  
ニテ攻ラルヘキトノ内意也ト云云  
右何故ニ信長勢州ノ國司ヲ攻討ント云ニ

先年ヨリ國司ノ總領殊ノ外ニタワケラレ  
候故ニ國人等アサケツテ國司ノ下知ヲ不  
聞ニ依テ去ル六年ニ信長ノ二男ヲ子ヤセン  
ト云フニ歳ニテ勢州へ養ヒ國司ノ一跡ヲ  
ツカセニトテ呼取リニ國司ノ長臣ニ桑  
名越前守ト云彼タワケノ國司ノ子ヲ取立  
ニトテ色々諫言シテ勢州ノ家督ヲニツニナ  
シタルナリ此桑名越前守ハタワケ者ノ母方  
ノ伯父ナリ兼禎ノ爲ニハ孫ナリ信長此意



旨アリ又先年ヨリ將軍三好退治ニ每度三  
好ト合体シタルウラニアリ然ルニ津川玄番  
ト云テ武衛ノ流ノ人アツカイニ入テ勢州ト  
尾州トノ中和アツテ國司將軍ノ御手ニ付  
ヘキニ究テ起請ヲ請ハレケルニ尾州ヨリ  
織田市令助江州ヨリ馬淵源太郎ヲ勢州ヘ  
越サレ誓旨ノ筆モトヲ見セラレテ事故ナ  
ク和睦調フナリ色々ノ事共多ケレ共日記  
ニトメス

廿九日西方二日入ニ赤青ノ氣立ツ三筋ア  
リ二筋ハ赤シ一筋ハ青シ  
四月小  
二日屋形上洛六角ノ館ニ付玉フテ三日ニ  
將軍ノ御所ヘ出仕アリ  
四日尾陽ノ織田家上洛油小路ニ著座アツ  
テ五日ニ將軍家ノ御所ニ出仕ナリ  
今日江陽尾陽兩將評定有テ明六日辰刻ニ  
二條新造ノ御所御移徒ノ事相定ル



六日辰刻天氣快晴將軍家本國寺ノ御所ヨリ  
二條元ノ御所へ移リ至フ行烈等多キニ依  
テ日記ニノセス 旺近ノ公家衆ニ行ニ供奉  
ス其次ニ江陽ノ屋敷供奉次ニ尾陽ノ織田  
家供奉アツテ其次々名高キ面々供奉ナリ  
七日江陽ノ屋敷ヨリ龍尾ト云太刀馬三匹  
黄金千兩ヲ將軍家ニ進ラル同日織田家ヨ  
リ山蛇ト云太刀ヲ進ラル此太刀ハ先年駿  
河今川義元上洛ノ時サレ信長トヲケハサ

一ニテ不意ノ合戦ニ打負アマツサヘ義元  
討死シタリシカ服部民部ト云者トツテ信  
長ニサ、ケタル太刀ナレハ信長弓矢ヲア  
ラハシタル初メノ合戦ニ大將ヲトルト云  
殊此太刀今川家ノ代々ノ寶也ト云傳ルナ  
リ今川ノ先祖清和天皇ヨリ十二代ノ末義  
氏ノ二男長氏ノ三男今川ノ四郎國氏ヨリ  
代々此太刀ヲ持來スルトナリ  
八日勅使三條中納言二條新御所ニ來リ至



フテ將軍家再ヒ二條安座ノ義ヲ皇家御璠  
重タルトノ御事ナリ今午剋ヨリ諸公家諸  
門跡等將軍家移徙人礼アリ  
九日十日十一日二條新御所ニテ御能アリ  
大夫八丹波梅若大夫ナリ洛中ノ貴賤見物  
ヲ致スヘキノヨシヲ被仰出諸公家門跡國  
主達不殘出仕アリ  
十三日將軍家尾陽ノ織田家江陽ノ屋形ニ  
仰付テ洛中諸役ノ町等へ黄金ヲ賜ル

廿一日二條南門ニラク書アリ其哥ニ  
十キアトノレル石ヲ取集メ  
ハカナク見ヘシ御所ノテイ哉  
右ノラク書シ何故ニ立ルニ今度ニ條ノ新  
御所造作殊ノ外急キ玉フニ依テ遠國ヨリ  
石ナト招キ集ル事ヲソキニ依テ賀茂平野  
西山東山ノ舊寺共コケムシスタリタル石  
共ヲアタルヲ幸ニ取ルホトニ石塔ナト多  
クハ如此ハラク書タテケルトナリ



廿五日五條松原通ヨリ彼落書タテタリニ  
者ヲ野村越中守カ手ノ者共カラメ取テ今  
日二條ノ御所ニロキ參ル將軍家天人與ヘ  
玉フ處ノ罪人ナリイカヤウニカ罪ニ行ハ  
ントテ種々思召テ尾陽江陽ノ兩將ヘ問ヒ  
玉フニ信長曰家モ罪ニ行ヒ玉フヘキ也四  
條川原ニテ釜ニテイリ殺サニナト申サル  
ニ江陽屋形曰甚奉行ノ科ナリラク書ヲ立  
ルハ治世ノアヤマリヲタ、ス所ナリ何ソ

國家ノアヤマリヲ改ル者ヲ罪スル法ナリ  
ト仰ケレハ將軍家理ニセマツテ彼ラク書  
立タル者ヲ免シ玉フナリ彼ラク書ヲ立タ  
ル者ハカクシモナキ狂哥ノ上手ニテ名ヲ  
ハ無一左衛門云町人ナリシカ先年三好家  
ヨリ御即位ヲトリ行ヒレ時モ此男數度ラ  
ク書ヲタテタルトナリ  
廿六日江陽尾陽ノ兩將御暇賜テ今日國ヘ  
カヘリ玉フカ信長觀音城ニ兩日滯留アツ



テ屋形ノ御前へ西美濃ニテ一万貫ノ所ヲ  
ツカハシ玉フ屋形ノ御前ハ信長ノ御息女  
成レハ如此ノ地ヲ與送リ玉フトナリ是ニ  
ツキ信長行人事アリ委クハ日記ニトメカ  
タシ淺井備前守長政力金言アリ世ヲハハ  
カツテ不謂トナリ  
廿八日尾州ノ織田家觀音城ヲ出テ美濃岐  
阜ニカヘラル  
廿九日卯剋地震一時ホト東ノ方ニ俄ニ赤

氣立ツ

五月大  
三日將軍家御不例ノ義ニ依テ今日青地駿  
河守ヲ京都ニノホセラル

潤五月小

四日勢多ノ社鳴動此社ハ番神ノ其一也  
五日佐々木宮御祭礼アリ天氣晴屋形社參  
又旗頭等不殘供奉ニ彼宮ニ向フ  
廿日若洲ノ武田大膳大夫義統江陽ニ來リ



王ノ是ハ越前ノ朝倉左衛門佐越後ノ長尾謙信ト去年ヨリ縁ヲ結ンテ逆心ノ志アルノヨリナリ依之彼國退治ノ評定也ト云  
廿五日將軍家ノ近習栗津源兵衛尉ト江陽ノ旗頭間宮越中守信武ト山科ニ於テ喧嘩ニ及ヒ忽ニ栗津ヲ討テ間宮石山寺ニ入ルノヨリ今日觀音城ニ告來ル  
晦日自竹生嶋言上ス秘法之事也屋形依御望也

六月大洪水  
十日山州西岡ニ一人ノ沙門アリ一空ト云  
吾ニ白山權現ノ移玉フトテ種々ノ神變ヲ云將軍家はヲ傳聞召テ今日二條ノ御所ニ召寄ラシ南禪寺秀源首座ヲ以テ其事ヲ問ヒ玉フニ一ツトシテ實ナシ依之四條川原ニ於テ罪ニ行ヒ玉フト也  
十四日大洪水白毛下ル長廿四五寸江陽所々ノ川水増出テ堤等損ニ田畠多損ス山州



賀茂川ノ水増テ今出川ノ町屋丹四町水ニ  
ヲホル  
十八日勢州ニテ兼禎父子評定シテ近日伊  
賀路ヨリ上洛アルヘキトノヨシヲ梅戸殿ヨ  
北觀音城ヘ告來ル  
廿八日關東伊豆ノ北條左京大夫氏康ヘ  
ツカハサル兩使今日カヘリ來テ北條家ノ  
返書ヲ屋形ニ献ス北條父子今月二日神原  
高國寺ニテ武田信玄ト合戦シテ北條家大

キニ利ヲ得ルトナリ信玄勢ヲ半ウタセ冨  
士ノ根方ヲ夜スカラ甲州ヘ引取ルトコ口  
ヲ北條ノ勢急ニヲイツメ武田カ八幡大菩  
薩ノ旗ヲ取ル此合戦ニ氏康ノ手ニ討取ル  
首千八百五十三トナリ其翌日ニ神原ノ堤  
ニ一首ノ狂哥ヲ立ルトナリ

名ヲカヘヨ武田カホスル八幡ノ  
ハタウチステ、ニケタ信玄

此落書ハ北條ノ家人ニ松野道軒ト云連哥



師カ立タルトナリ

右ノ旨ハ關東へ去月ツカハシモフ兩使屋

形ニ言上スル通如此此外種々ノ事アレ共

日記ニト、メス

七月小

朔日ヨリ前屋形義實公ノ十三年忌ノ御吊

アリ今日ヨリ東光寺ニテ万部始ル經中ノ

奉行ニハ山崎權十郎片桐半兵衛尉澤田民

部少輔種田角内左衛門尉等ナリ毎日國中

ノ旗頭等其外近習ノ面々ニ至ルマテ參詣ス

八日屋形東光寺ニ參玉フ

同日將軍家ヨリ細井采女正ヲ以テ東光寺

ニツカハシ御名代ノ焼香アリ當將軍ハ專

ラ當家ノ武功ニテ并ヒ天下ニスワリ玉フニ

依テ如此ノ礼アリト云

廿六日奥州へツカハシ玉フ使節和田兵内今

月カヘリ來ル會津ノ盛氏ヨリ返書アリ兵

内屋形ニ言上スル品々去年ヨリ盛氏ノ家



又近松伊豆守ト云寄子ノ申分ニテ近松居  
城ニ引籠會津大キニサワク今月朔日ニ盛  
氏近松カ居城ヲ攻メ落シ近松ニ寄人百七  
十人討取ルノヨシヲ言上ス此外種々ノ義  
アレ共遠國ノ事ナル故ニヲホツカナシ依  
テ不知ヲハ日記ニト、メス  
廿七日三好笑岩勢州ノ國司ト一味ニ其外  
越前ノ朝倉兼頼父子齊藤龍興父子十ト一  
味ニテ泉州ニ來ル三日ニ勢汰有ヘキノヨ

レヲ河内國若江河内守實氏カ方ヨリ今日  
觀音城へ告來ル  
廿七日進藤山城守ヲ尾陽ノ織田ヘツカハシ  
王ヲ是ハ昨日河内國ヨリ告來ルノ事ニ付  
テ評義ノタメ也ト云  
廿九日鳥山實輔入道子息等加領依父忠功也  
八月小  
十三日山門横河ノ岸ヨリ光物出テ勢田橋  
ニ落テ橋板四枚焼ヲツル



十四日尾陽ヨリ進藤山城守カヘリ來テ織田家ノ返書ヲ屋形ニ献ス事急ニ成ラヌ前ニ勢州ヲ攻討ヘキトノ事ナリ織田家ハ當月十九日岐阜城ヲ立テ勢州ヘ進發有ヘキトノ事ナリ  
十五日屋形勢州ヘ進發アルヘキ也トテ國中ノ旗頭等ヘ仰渡サル  
十八日江南ノ旗頭等ハ鈴麻越ニ勢州ヘ打入ヘキノヨニヲ仰付ラシテ明十九日ニ可

打立ニ相定リ又  
十九日屋形數万ヲ引卒觀音城ヲ立玉フ廿日ニハ君カ畠越ニ北伊勢桑名ニツキ陣取玉フ廿日尾州ノ織田家岐阜ヲ立テ同桑名ニ至テ陣取り玉フ江陽尾陽ノ兩將是ニテ軍評定アリ  
廿三日兩將木造城ニ著陣アツテ軍評義アリ  
廿五日淺香城ヲ責玉フヘキニ定テ織田家ヨリハ木下藤吉郎不破河内守林佐渡守三



人此勢八千七百騎江陽ヨリ八日加田攝津  
守後藤喜三郎同左馬允進藤山城守四人此  
勢七千五騎ナリ今日午剋ヨリ東西ヨリ攻  
寄未剋ニ味方へ討取首三百七十三ナリ城  
ノ大將木造刑部少輔降參シ先馳ノ勢ニ加  
リ案内致スへキニ定テ申剋ニ淺香城落居  
コテ城ヲ請取ル  
廿六日兩將ヨリ淺香城ニ入ヲカル面々瀧  
川文内馬淵十兵衛兩人ニ弓者七百人サシ

ソへ入ヲカル

廿七日兩將軍評義有テ國司父子并箕作義  
禎父子ナト一所ニタテコモリタル大河内  
ノ城ヲ責モへキニ定テ軍ノ行等ノ評定  
今日定テ明廿八日ニ攻討へキトノ事ナリ  
廿八日大河内ノ城責所手分ノ事

一南ノ手ハ江陽ノ屋形其勢四万七千騎供  
奉シタル旗頭等ハ蒲生右兵衛大夫進藤

山城守後藤喜三郎山岡美作守同玉村齊



磯野丹波守淺井備前守目加田攝津守伊  
達出羽守平井加賀守三上伊豫守高嶋越  
中守山崎源太左衛門永原大炊頭赤田信  
濃守朽木信濃守澤田民部少輔和田中書  
吉田出雲守箕浦次郎左衛門多賀新左衛  
門尉永田刑部少輔官川三河守文德左近  
衛兵衛尉三井出羽守馬淵越後守京極長門  
守青地駿河守同千世壽丸大野木土佐守  
阿閉淡路守鏡兵部少輔和介丹後守小川

孫一郎大守太和守三田村左衛門尉鯨江  
又一郎堅田兵部少輔和田和泉守同伊賀  
守村井長門守三雲新五郎種村大藏大夫  
建部采女正永原筑前守乾甲斐守山内伊  
豫守間宮左近將監松下藤五郎龜井新十  
郎森川次郎左衛門左子刑部左衛門尉山  
田主水正野村豊後守等十人  
一西ノ手ハ尾陽ノ織田家其勢五万三千騎  
供奉シタル旗頭等ハ織田上野介同掃部



同大隅守稻葉伊豫守池田庄三郎和田新  
介中嶋豊後守丹羽五郎左衛門佐久間右  
衛門木下藤吉郎德川三川守氏家左京塚  
木小大膳伊賀伊賀守齊藤新五郎坂井右  
近蜂屋兵庫築田彌次右衛門中條將監比  
田修理森三左衛門長谷川與次郎佐々内  
藏助梶原平次郎不破河内守九毛兵庫毛  
利河内守生駒平左衛門中川金右衛門神  
戶加介荒川新八野々木主水瀧川茂右衛

門前田又左衛門菅屋九右衛門等也

廿九日卯剋ヨリ午剋ニテ合戰江陽ノ手ニ  
首四千三百二十三尾陽ノ手ニ五千二百五  
十二味放へ討取國司ノ武者大將ノ内、遠山  
右近植田遠江守田丸采女正關越前守服部  
十左衛門尉大宮美作守榑戸肥前守河曲土  
佐守飯高三川守飯野日向守阿部上野守山  
田尾張守等十リ  
一味方討死ノ事江陽ノ手ニテ八百五十二



一人ナリ此内江陽ニテ再拜ヲ取りタル者  
田ノ内ニニノ八朝日孫八郎波多野彌藏近松豊  
後守乾甲斐守池田孫三郎山田太兵衛寺  
澤彌九郎鈴村主馬允等ナリ  
尾陽ノ手ニテ討死ノ事九百三十五人此  
内再拜ヲ取りシ者ニハ神戸伯耆守同四  
方介溝口富介齊藤新五郎古河久介河野  
大三吉金松久左衛門織田市令介丹羽彦六  
左衛門江田源八岡嶋十兵衛等ナリ

同日未剋ニ責口ヲ休メラルノ時敵味方討  
死ヲ改メラレテ右ノ如シ  
同日酉刻ニ國司父子ヨリ大官舎忍齊息兵  
部少輔具長ヲ出シ助命アラハ城ヲ開キ太  
和國へ退申ヘキトノ事ナリ江陽尾陽ノ御  
兩將評義有テ助命アリ可然ニ定リヌ

九月大

朔日昨日ノ義ニ依テ國司父子大河内ノ城  
ヲ開キ退ク午刻箕作兼禎父子ハ根來寺へ



退キ玉フ  
同日兩將大河内ノ城ヲ請取テ番手ヲ入ヲ  
キ玉フ尾州ヨリ織田大隅守ニ五百騎ヲサ  
レソヘラル江陽ヨリハ京極長門守高吉ニ  
四百五十騎ヲサレソヘテカリニ先大河内  
ノ城ニシキ玉フ  
二日國司持ノ城々共勢州伊賀兩國ニテ共  
四ヶ所皆開キ退クニ依テ今日城々番手ノ  
面々兩將御評義有テ仰付ラル

一上野城ニ織田上野介神戸城ニ進藤山城  
守長嶋城ニ瀧川左近將監津城ニ青地伊  
豫守松坂城ニ木下藤吉郎田丸城ニ目加  
多攝津守等ヲ置キ玉フ殘テ番手ノ衆記  
ニイトマナレ依テ略ス  
兩將勢州平均ニ治ラレテ五奉行ヲ山田  
ノ城ニスヘラレ所々關所ヲ破リ玉フ國司  
國ヲ治ムルノ時ニ所々ニ新關ヲ立テ參  
官ノ上下ヨリ錢ヲ取りタル關共十リ



十四日將軍家ヨリ細川兵部大輔上使トシテ今日勢州ニ下向アツテ兩將上使ニ對面アリ勢州ノ事故ナク治ヌ玉フノヨリ將軍家御大悅ノ御書下ル  
廿日織田家勢州ヲ立テ美濃國岐阜ヘカハラル同日江陽ノ屋敷モ勢州ヲ立テ江州觀音城ニカヘリ玉フ  
廿四日屋敷今日旗頭等ヘ勢州ニテ功アル面々ヘ賞地ヲ行ヒ玉フ中ニ澤田民部少輔

忠氏大河内南手ノ一番ノリユヘニ諸人ニ替タル文言ノカニ狀ヲ下玉フ  
廿五日織田家岐阜ヨリ觀音城ヘ來リ玉フ  
廿八日今日織田家江陽ノ屋敷御同道ニテ上洛ス兩將共ニ外様ノ兩々一人モ不具近習計ヲ召具セラル

十月小

四日江陽尾陽ノ兩將今日將軍ノ御所ニ出仕アリ將軍家兩將ヘ太刀ヲ與ヘテ甚ク



キシノ礼アリト云ハ大...  
十八日將軍家江陽尾陽ノ兩將へ告テ曰禁  
中悉ク修理有度ノ上意ナリ是ハ將軍家再  
ヒ上京ノ御祝也ト云  
同日兩將評義有テ禁中修理ノ義ヲ日乘上  
人嶋田所介村井長門守三井出羽守伊庭道  
樂齊等ニ仰付ラル  
廿日禁中修理等ノ事初アリ前ヨリ二十五  
間地ヲ廣ク南キハ一番入り二番入り三番入り

廿五日尾陽江陽ノ兩將將軍家ノ御イト  
ニテ今日京ヨリ下向  
廿七日高嶋越中守卒ス行年五十三江北ノ  
旗頭タリ甚屋形悲玉ノ前屋形ノ御時ニ軍  
忠多キ人ナリ小童ノ時氏綱公ニ仕ヘシ也  
十三歳ノ時江州高崎ニテ諸人ニサキ立テ  
鑓ヲ合テ功アルニ依テ氏綱公別テアイ深  
クシ玉フ後ニハ一城ヲアツケ玉ヒ又江陽  
ニテ武ノ知職ト云レタル者ナリ



同日酉剋二地震戊剋初テ雪下ル

廿八日種村大藏大夫カニ男屋形ノ御氣色

ニ違テ雲光寺へ入寺ス

十一月大

七日三上大學助秀長翁問答鬼神論ト云書

ヲ作テ今日屋形ニ献ス此三上ハ若年ノ時

ヨリ學譽アル者ナリ智惠ヲカキトテ俗ニ

近江文殊ト云ニ水トノ者ナリ

十五日尾陽ヨリ池田庄三郎信輝今日江陽

ニ來テ屋形ニ見奉ル衆ニ語テ曰今月三日

織田家黒赤ノ母衣ノ者ヲ十九人エラシ

トナリ是ニテ織田家ニハ母衣ノ者ト云事

ナシ江陽ニテハ赤白ノ母衣ノ衆トテ四十

六人アリ

廿六日大雪下ル馬淵道雲卒ス行年七十三

前屋形義實公御伽ノ衆ナリ

廿七日山州紫雲山新黒谷光明寺一揆ノ夕メ

ニ焼失ノヨシ告來ル彼寺ノ上人ハ屋形ノ



族十リ、日... 晦日蒲生右兵衛大夫カニ男右馬大夫氏信  
積尾ニ入テ出家ス百二十戒ヲ持ト云行年  
六一歳イカ成事ニ依テ如此ノ法心ソト尋  
ルニ蒲生女房ハ高嶋越中守カ息女タリニ  
彼腹ノ子ニ家督ヲユツリ右馬大夫ヲ家礼  
ノ如クセント云ニ依テト云委ク不知屋形澤  
田右京亮ヲ以テ右馬大夫ヲ呼フ終不出來  
ニ來十二月小只奉... 詔云今日三日

廿日大雪下ル淺井下野守祐政硯一面ヲ屋  
形ニ献ス此硯ハ兼元三年ニ佐々木加地兵  
衛太郎信實入道西仁求メ出テ時ノ將軍家  
ニ進ス平氏通盛ノ硯也ト云然ルニ鎌倉一  
乱ノ後相州埋澤ト云所ノ草庵ニ侍テ數百  
年寺門ノカウカツタリ然ニ去ル永祿元年  
ニ彼寺ノ沙門妙休ト云上人持上テ右ノ由  
來ヲ語テ淺井ニ與ヘタリ云屋形甚秘藏ス  
廿四日上月美作守ヲ年暮ノ御名代トシ京



都ニ上セララル郷迄上物アリ屋形上月ニ密  
シテ御付ラル事アリ子細ヲ不知  
廿五日屋形旗頭等ニ命シテ曰、歳未ノ送り  
物ヲ止メモフ是事ノツイヘヲイトヒ玉フ  
トナリ  
同日屋形ノ郷可病氣ニ依テ旗頭等不殘觀  
音城ニ馳集ル  
廿六日白雲山へ屋形目加田ヲツカハス事  
ノ子細ヲ不知

同日織田家ヨリ使節アリ屋形淺井備前守  
長政ヲ觀音城ニ召シテ秘シテ評義シ玉フ  
事アリ

江源武鑑卷第十四 終





